



秩父夜祭 (秩父市観光協会提供)



第九拾六第

発行
 さいたま市大宮区高鼻町1-407
 埼玉県神社庁
 電話048(643)3542番
 編集室
 印刷部
 アサヒ印刷(株)

秩父夜祭と妙見市

編集長 網野直久

天空に幾重にも織りなされる花火を背景に、勇壮な「秩父屋台囃子」の轟く中を豪華絢爛な二基の笠鉾と四台の屋台が急勾配の「団子坂」を次々曳き上げられる。これは、毎年十二月三日を祭日とする秩父神社例大祭において、「秩父夜祭」の名で知られる神幸祭での代表的な一場面である。古来、この祭礼は「霜月大祭」・「妙見市」・「お蚕まつり」などと呼ばれ習わされ、その期間中(旧暦十一月一日〜六日)「絹大市」が立った。明治以降は祭日が十二月になったものの、「六日市」の呼称にかつての市立ての名残を留めている。これは、戦国期に全国的に展開された六斎市と結び付いたものと思われる。六斎市とは、五日ごとに月六回行われる定期市のことである。

戦国大名は領国支配の経済的基盤の一つとして、その交易を認め保護を与えた。県内においても、東南部を中心に蕨・指扇村など三十三ヶ所の存在が知られている。

鉢形城(寄居町)にあつて、秩父地方を領有した北条氏邦も、城下の市を重視した。近世になって確認される秩父郡内の六斎市、大宮郷(秩父市)の一・六の日、賢川(荒川村)の二・七の日、吉田(吉田町)の三・八の日、大野原(秩父市)の四・九の日、上小鹿野(小鹿野町)の五・一〇の日もこうした関わりの中で開設されたものと思われる。これらの内、「妙見市」の母体となったのが大宮郷の市である。「秩父夜祭」の期間でもある、一日と六日の市日の間連日開催された。その取扱われる商品の多くは、絹糸・太織など絹製品で、諸国より集まった絹商人で大変賑わった。「絹大市」と呼ばれた所以である。農産物生産の限られる山間地域にあつて、絹製品の齎す経済効果は絶大であった。

去る十月二十三日に「新潟県中越地震」が発生、同地域に甚大な被害を与えた。被災地の方々の御苦難は如何ばかりであるか、心よりお見舞いを申し上げたい。山間部である山古志村など壊滅的な被害を受けた所もある。錦鯉の養殖など、土地に根差した産業も復興の目処は立っていない。一日も早く生活や産業が旧に復し、人々の集うマチとして賑わいが戻ることを祈念してやまない。

神社、私の心の故郷

狭山ヶ丘高校 校長 小川 義 男



プロフィール

北海道教育大卒。

中学校を皮切りに、北海道、東京で公立小学校教員、教頭、校長。平成四年より狭山ヶ丘学園理事、同八年校長。

早稲田大学大学院商学研究科修了。

編著「あらずして読む日本の名著」「同世界の名著」は、一〇〇万部に達する大ベストセラー。「学校崩壊なんかさせるか」「二時間日国語」「カリスマ校長が語る、こうすれば本好きの子に育つ」等著書多数。近刊「一冊で読む日本の名作童話」。

現在校長の傍ら、早稲田大学大学院博士課程に学生として在籍。他方講演、各紙誌における評論等で活発な活動を展開している。

昔は神社の前を通るときには、停止し、神社にきちんと向かって最敬礼するのが、確立された習慣であった。私は、敗戦の年に旧制中学の一年生であったが、当時の中学生は、整列して、集団で登校した。従って、神社に向かつて全員が最敬礼するわけには行かない。そのようなとき、集団を率いる上級生は、「歩調を取れ」と、号令を掛けたものである。

「歩調を取れ」と言っても、意味の分かる人は、もうほとんどいないだろう。当時、中学生や女学生が、集団で行動するときには、必ず誰かが、指揮の責任を負うのが常であった。敗戦近い頃には、四年生、五年生は大抵勤労働員のため不在であったので、指揮を取るのは三年生であった。

前方から先生が来たような場合、指揮を担当している三年生が、「歩調を取れ」と号令を掛ける。指揮者は、歩きながら先生に挙手の礼をするが、隊列の中の私たちは、それまとは歴然と違うように、足を高く上げて行進するのである。手も、肩の高さまで上げる。答礼して、先生が去っていくと、指揮者は、「歩調やめ」と号令を掛ける。すると私たちは、普通の行進に戻る。

これを、神社の前でも行ったのである。旧制中学は、なかなかの難関であった。我々はその事を誇りにも思っていたから、少し面はゆい気持ちで、「歩調を取った」ものである。その一年前、中学の受験勉強に忙しかった私には、妹があった。五つ歳下の一年生である。まだ小さいので、手を引いて歩いたが、私はこの妹をずいぶん可愛がった。びろろの赤い服がよく似合う一年生であった。小学生とは言え兄だから、いろいろな事を教えるなければならない。悪い事や、悪い言葉を覚えたりしないか、それも心配な、「まじめなお兄ちゃん」であった。

ところが、この妹が、神社の前でお辞儀をしないのである。いくら言っても頭を下げない。言われたとおりに停止して、神社の方を向くには向くのだが、どうしても頭を下げないのである。私は困った。いろいろ言って聞かせるが、彼女は頭を下げない。「神社の前では、頭を下げるのっ！」強く言っても私は、上から彼女の頭を押さえた。小さいから、簡単に押さえることができる。

ところが何と、あの素直な彼女が、言われた通り頭を下げるどころか、下からぐんと突き上げてきたのである。今まで私に逆らった事などないのだから、私は驚いた。しかし、突き上げながら、私の方をちらと見た彼女の表情に、私は芽生え育ってくる者の持つ、力強さ、頼もしさを感じた。「やつぱり成長してきているんだ、そんな思いだったである

うか。私は妹の顔を見て笑い出した。

後年、彼女にこの話をした事があったが、妹も、その時の事は、はっきりと覚えていた。お辞儀が嫌だったのではなく、ただ、そうするのが恥ずかしかつたのださうである。「兄への盲目的服従に対する抵抗」ではなかったのだから、私は少しく失望したが、次の言葉には驚いた。「あのとき、私の顔を見て笑った兄貴の表情は、とても子どもの顔ではなかった。成熟しきった大人の笑いだったように思う。」と、彼女は語つたのである。一年生が、そんな視点から兄を見るような事があるのかと、少し空恐ろしくも感じたが、私にとっては、懐かしく、甘酸っぱい思い出である。私が育つた北海道の滝川市にある「滝川神社」は、今もその頃と少しも変わらぬたたくずまいを見せている。

変化の時代、激変の時代である。過疎化が叫ばれる北海道でさえ、都市部の変貌は著しい。そのような激変の中にあつて、滝川市に限らず、日本全国で、神社は変わらぬたたくずまいをみせている。ここに神社が、国民の心の故郷である消息を感じ取る事ができるのではないだろうか。

昔は、時折担任が引率して神社参拝につれて行つてくれた。そのようなときは必ず自由な時間をくれ、好きなように遊ばせてくれた。境内は広かつたし、それが果てるあたりには、なだらかな斜面があつた。大木も生えている。斜面を走り回つたり、木に登つたり

する事も自由であつた。神主さんがそれをとめるような事も全くなかつた。

神々しい神社の建物と、それを取り巻く深い緑は、子どもにとつても安らぎの場であつた。自由に遊び回りながらも、どこかに厳粛な雰囲気を感じられ、何とも充実した幸福感を味わつたものである。

秋には祭りがあつた。境内一杯にテントの店が並ぶ。夜はカーバイトで燃えるアセチレン燈が明るかつた。その独特の匂いと、売られている食べ物などの匂いを、私は今も実感する事ができる。

産土神と氏神、国語で私たちは神社の由来を習つた。神道は一種の祖先崇拜なのだと思はるが、「氏神」であるばかりでなく、「産土神」として、そこに生きるすべての人々を包み込んでいくおおらかさが、神社にはあつた。「私は妬み深い神である」として、自分以外のものを拝む事を最大の罪とする、キリスト教的・一神教に比べ、何という懐の深さであらうか。

今浅間山が噴火している。今朝など、入間市の私の車にも灰がうつつすらと積もつていた。浅間に大噴火があり、その溶岩で沢山の人が死んだとき、神社に走つた人だけは、命が助かつたさうである。最近発掘してみると、あと数メートルで石段にたどり着けるといふところで力尽き、溶岩に呑み込まれた遺体もあつたと言ふ。人々は、どんな災害があつても、その危険が及ばないところに神社

を造るべく努力していたのであらう。

そこには、至らぬ身でありながら、己を神であるかのごとくに思い上がり、傲岸不遜に振る舞う現代人とは、質的に異なる人間像を見る事ができる。彼らは、力弱い自らの限界を弁え、人では推しはかる事のできない偉大なる力の存在する事を知り、謙虚に慎ましく生きていたのである。

私の学校の近くに「熊野神社」がある。祭りの折りには、神社独特の幟が立つ。あの幟が風にはためいているのに接すると、私は言いしれぬ安らぎを覚える。現代高校生は、幟など目もくれぬかのごとくに、下校の道を急ぐ。しかし私は、彼ら自身にも気づかぬところで、民族の心は育てられているのだと思ふ。

「信教の自由」、そのような薄っぺらな小理屈で、民族数千年の習俗、その守り手である神社が軽視されがちな昨今である。だが、家を建てようとするときに、地鎮祭を行わないではいられない日本人、正月には神社詣でに出かけずにはいられない日本人の心に、鎮守の森は、今も息づいている。

少年時代を振り返るとき、私の場合は、その場面に必ず滝川神社が登場する。おそらくすべての人に取り、神社は心の安らぎのオリジンなのであらう。我々は知恵と力を出し合つて、全国のあらゆる場所に存在する民族の魂の拠り所を、大切に守つていかなければならないと思ふのである。

平成十六年度 教化研修会報告

教化研修部長 福井千秋

平成十六年度埼玉県神社庁 教化委員会 教化研修部では、情報過剰、価値観の混乱する現代社会において、「神職の資質の向上」をテーマに掲げて、活動していきたいと考えております。

今回の三峯神社における教化研修会では、今の現在の我々のとりまく環境そして、これからの社会を考えていくと、われわれ神道人は、ものを言葉にして、わかりやすく伝えていくことが大切であり、必要になってくるのではないかと考え、「話術を学ぶ研修」をさせていただきます。

前幸手市長の増田実先生から「人の心をつかむ話し方」として、わかりやすく、ゆっく

り、明確にそして一生懸命に話す事がとても大切であると、ご指摘いただきました。つづいて、出席者全員に、実際に話しをすることを体験してみましようということで、「ディベート」という一つのゲームを使い挑戦していただきました。ディベートという言葉初めて聞いた方やディベート体験初めてという方が多い中での研修となりました。

まず、「ディベート」とはなんぞやという事から始まり、ディベートのルールやおもしろさ等の内容について講演をいただき、ひきつづいて、講師の方々の模擬ディベート「プロ野球は一リーグ制にすべきか」を見ていただきました。そして、出席者全員にて、「鎮

守の杜は必要か」というテーマで、「ディベート三峯」を開催しました。

われわれ神道人が、鎮守の杜は必要でないと考え、日々の神明奉仕の中では、なかなか考えられないことだと思えます。だが、この「ディベート三峯」の中では、否定側にまわった班は、日頃使わないところの神経を使わざるを得なかったという事で、大変だったのではないだろうか。

神社の取り巻く環境が厳しい中で、地域社会―氏子―総代さんとの絆をいかに構築していくかが大きな課題となっている今、われわれ神道人が前向きに物事を考え、ものをわかりやすく伝えることによって、総代氏子地域も変わってくるのではないのでしょうか。この研修で出席者それぞれの心の中に、なにかしらの思いをもって下山してくれていたらと思います。



平成16年度 埼玉県神社庁教化研修会



—平成16年度— 教化研修会日程表		
9月11日(土)	9月10日(金)	
起床		5:30
奥社登拝 <small>(雨天時・登拝不参加は朝拝)</small>		6:00
朝食 <small>(荷物整理)</small>		8:00
班別ディベート・その2		9:00
まとめ		
閉会式 昼食 解散	付食 受昼	11:30
	正参拝 写真撮影 開会式	12:00 午後
【ディベートって何?】 ディベートとは「公の場でルールに従って議論すること」です。	講演 増田実講師 「人の心をつかむ話し方」	1:00
	講義 伊藤学講師 「ディベートについて」 ★模擬ディベート	2:00
	班別ディベートの作戦タイム	3:00
	入浴 食事	5:00
	班別ディベート・その1	6:00
	懇親会	7:00
	就寝	9:00

講演 「人の心をつかむ話し方」

講師 増田 実



プロフィール

昭和二十年五月七日生まれ。五十九歳。立教
大学法学部卒業。現在、司法書士。

- ・ 幸手町議会議員 二期
- ・ 幸手市議会議員 二期
- ・ 幸手市長 三期
- ・ 埼玉青年市長会 会長
- ・ 埼玉市長会 副会長
- ・ (社)幸手青年会議所初代理事長等を歴任

人の心をつかむ話し方とは、それ自身は目的ではなく、目的を達成するための手段に他なりません。ですから、相手にいかにうまく伝えるか、それは、いかに人の心をつかむ話し方ができるかということに集約されます。理論的には簡単なことです。ゆつくりと丁寧に、元氣よく、起承転結をしっかりと組み立て、心を込めて話をする事です。そこで、実際に私がテーマを定めて、皆さんの心をつ

かむ話をさせていただきます。それを通して何か一つでも会得していただければ幸いです。

テーマは「なぜ市長を目指したか(目標設定)から達成へ」、そして、本日の研修テーマである「これでいいのか神道人」について、話をいたします。

話は、私が一〇キロほど離れた街の高校に入学した時のことです。自己紹介で「桜で有名な幸手から来ました」と話した時、級友は挙って「幸手の桜を知らない」というのです。これには正直ショックを受け、今までこの桜に、いかに自己満足していたか思い知らされました。「いつの日か有名なまちをつくりたい」、これが、私が後に市長を目指した大きなきっかけです。弱冠三十三歳で町議選に初出馬。地盤も看板もカバンもなく、二位で当選させていただいた私は、本気で話せば大勢の人を動かすことができるのだと実感しました。

議員であることに限界を感じた三十九歳の折、町長選に挑みましたが、大きな権力との戦いは、惜敗という結果に至りました。そして、私が「話し方」に大きくこだわり始めたのは、まさにこの時です。たった一回のチャンスで、いかに人の心をつかむ話ができるか、それは、自分の体験談を通して感動や嬉しさ、悔しさを伝えること、そして、納得いくまで幾度も練習を重ねることだと思ひ、こ

れをひたすら実践してきました。

四十八歳で市長に当選。不況の只中であつて、財政の建て直しを第一義にしながらも、有名なまちをつくりたいという思いを数々実現してきました。幸手が、関東でも有数の桜の名所となったのは、ご承知の通りです。しかし昨年、理不尽ながら、合併問題を発端に市長を退くこととなりました。結果は真摯に受け止めつつも、私の故郷への思いは永遠です。

目標設定から達成へ、そしてそこに夢を持ち続けることこそ大切だと、私は思います。次に、大変僥倖ながら、皆さんに職業人としてさらに頑張つてほしいという話をさせていただきます。

私は、神社仏閣が好きで、全国津々浦々をよく廻っています。そんな折にいつも感じるのは、もつとセールスすればいいのになという事です。日本は元来、神の国。しかし、後から入ってきた仏教やキリスト教に押されている現実は否めません。何もしなければ、市場はさらに狭まります。

私が生業とする司法書士も元来、待つていればお客が来てくれる商売でしたが、私は営業に力を入れてきました。営業効果は皆さまに表れました。

伸びている企業をヒントにして市場を広げる努力をすることは、皆さんの神社がビジネスとして確かに存続していく一つの手段ではないかと、私は考えます。

以上、二つのテーマで話をさせていただきましたが、この中から皆さんが何か一つでも応用できるものがありましたら、幸いです。

以上、二つのテーマで話をさせていただきましたが、この中から皆さんが何か一つでも応用できるものがありましたら、幸いです。

以上、二つのテーマで話をさせていただきましたが、この中から皆さんが何か一つでも応用できるものがありましたら、幸いです。

「お宮と親子の集い」報告

大里支部

事務局 岩井 弘之

大里支部では、鎮守の森での親子の触れ合
いを通して、楽しい思い出づくりと神社に親
しみを持っていただくこと、今年も夏休み期
間中、支部管内のお宮十一会場（新規取り組
み三会場、継続取り組み八会場）で開催され、
多くの親子が集い、様々な行事に参加し、お



宮の森では親子の元気な笑い声や歓声が響き渡った。以下、今年度新たに取り組みされた三会場について報告致します。

一、深谷市櫻合鎮座の常世岐姫神社（宮本実宮司）では、七月二十五日神社の夏祭りに合わせて開催され、氏子地域をあげての取り組みとなり、六百五十名（子供百三十名）が参加した。当日、宮司より夏祭りに関する話があり、続いて総代から手水の使い方、玉串の捧げ方などの説明があり、神事に参加して子供代表も玉串を捧げた。神事終了後、神輿巡行があり、役員の方の下、元気な掛け声をあげながら氏子地域を巡行した。引き続き、大勢の参加者を前に練習に取り組んできた「お囃子」の成果を披露した。また境内では風船つり・射的・金魚すくい・綿飴等の出店（総代・役員奉仕）があり、親子とも楽しい一日を過ごした。

二、江南町御生新田鎮座の雷電神社（小柴捷子宮司）では、七月二十七日神社夏祭りに合わせて実施され、二百五十名（子供六十名）が参加した。当日はまず、宮司の指導により灯笼作りに取り組み、子供たちが思いおもいに描いた絵を灯笼に張り、二百基を参道や境内地に飾った。続いて役員の手導により、手水の使い方・玉串拝礼を練習

した後、宵宮祭に全員が参列し、六年生が子供を代表して玉串を捧げ参拝をした。薄暗くなり始めたころそれぞれの灯笼に火が点り、ほのかに境内を照らす中、雅楽の夕べが始まり、親子ともに優雅な音色を楽しんだ。子供たちは、独特な音を出す楽器に大変興味を示していた。また、境内では夜店やカラオケがあり、花火大会も行われ、楽しい親子の集いとなった。

三、熊谷市箱田鎮座の箱田神社（茂木治男宮司）では、七月二十八日神社の夏祭りに合わせて実施され、約八十名（子供三十八名）が参加し、楽しい集いとなった。当日先ず、宮司の挨拶に続いて、総代役員からお宮と親子の集いについてのお話があり、夏祭り神事に参加、子供の代表も玉串を捧げた。夕刻には親子で作った行灯を境内に飾り、明りを点す中、氏子の人達が奏でる大正琴の音に聞き入っていた。行事終了後、子供たちの励みになればと、行灯に描いた絵の審査発表と優秀作品への表彰式があり、楽しい行事となった。

北足立支部

事業委員長 吉田 律子

当支部においての「お宮と親子の集い」も本年は第四回をむかえ、いずれも八月の夏休みに実施されました。左記のとおりです。

①十三年：本太水川神社例大祭の夜実施される神燈まつりへの参加（既に青年会により



紙の行灯を千八百個無料配布で十七年間経
続中)

②十四年：岡水川神社―神宮大麻の解説・舞・雅楽の解説と演奏

③十五年：東沼神社―舞・獅子舞・神話劇

④十六年：前川神社―祭祀舞・神様のお話・神話劇

ここ数年にわたり教化委員会を始めとし埼玉県内に日本神話についての研修が盛んに実施されて来ましたが、北足立支部でも事業委員会を要とし役員の方々のご理解を頂き、十五年度に初めて神職自身が演ずる劇を発表する事が出来ました。幸いに当支部に脚本、演出の専門の水川女體神社清水さえり権禰宜

が居りましたので、古事記、日本書紀より脚本を起し「国生み」「八岐の大蛇」「天の岩戸」の三部作が出来上り昨年は四月より公開練習に入る事が出来ましたが、本年は委員交替の時期により事業開催迄の時間が不足する感もあり、「ヤマタのオロチ」の一話をとり上げました。神社から地域へ発信出来る物とは考え委員が役割を分担し、特別な猛暑の夜、社務終了後にバイクで、車で、と会場神社にかけつけました。七月は夏まつりで練習もままならず、七回程で本番をむかえた訳です。しかし神職だけではどうしても出来ない部分の照明・音響は劇団「櫻」のメンバーに協力して頂き、助演も依頼しました。

又、地元の子供達（姫神）その親（ヤマタのオロチ）の出演は汗を流した分だけ地域との絆が深まり、どよめきと共に手作りの劇が森から町の中へと発信されました。

会場神社では何回も総代会を開き、地域警察、自治会、交通安全協会等々、星野健一宮司を中心にしたより濃密な連合体が確認されました。それは一神社の為だけでなく、神社界全体へ広がることを望みます。当日八月八日は、境内を埋めつくした二百人もの氏子さんに大変楽しんでもらいました。準備段階からの苦勞が報われ、成功裡に終了したことは、関係者一同の感激となっております。

今回当支部の事業の一環として実施したこの事業の展開については、全国女子神職協議会の理事として各県に招かれました時に、ピ

デオテープをお渡しして喜ばれて居る事を報告して稿を終ります。

南埼玉支部

事務局 高梨 佳樹

去る八月二十二日、当支部において、お宮と親子の集いが開催された。本年は、平成十三年四月に思わぬ不審火により社殿を焼失され、この度見事に復興がなされた蓮田市・久伊豆神社（矢島忠男宮司）を会場に、氏子子弟四十五名・支部神職二十名が集い、残暑厳しい夏休みの一日を過ごした。

この日までに、支部担当者の会議を重ね



て、前日より会場の準備とリハーサルを行い、愈々当日午前十時、押田豊支部長より挨拶の後正式参拝を行い、三班に分かれた子供たちの各班長が代表で玉串拝礼をし、けがないよう今日一日の安全を祈った。

その後、恩田栄治氏、矢島忠秀氏により、笙と竜笛による雅楽の演奏と説明に続き、矢島宮司のハーモニカを先導に、「むすんでひらいて」「夏は来ぬ」「故郷」等全六曲を全員で合唱した。最後に地元大正琴の会による「牧場の朝」「うみ」「港」等全六曲の演奏がなされ、子供たちは興味深く見ていた。終了後、境内にてカード探しゲーム(一つの文章を一文字ずつカードに書き、境内に数ヶ所に掲げ、文章を完成させるゲーム)や、大縄跳びゲーム(大縄を廻し、全員で何回とべるか競う)で、各班が得点を競い合った。大縄跳びは、大縄を廻すのが意外と難しく、飛ぶ方も足が絡まって思いのほか続かなかったが、時間的にはちょうどよく、午前の部を終了。昼食は恒例により、手作りカレーが大好評であった。昼食後に、班別スイカ割り競争を行い、最後に各班毎に境内三ヶ所に記念の真榊を植樹し、一人一人がスコップで土を盛り、その前で記念撮影をして終了。

閉会式では、各班の代表者がそれぞれ楽しかったゲーム等の感想を発表し、閉会式において、班別対抗の総合得点が発表され、参加者全員に、表彰状と記念品が渡され全日程が盛会のうちに無事に終了した。

北埼玉支部

事務局 荒木健治

北埼玉支部は、八月二十二日(日)天候に恵まれ緑豊かな加須市中央鎮座千方神社堀越敏男宮司)を会場にして、第五回「お宮と親子の集い」を開催し幼稚園児・小学生の親子、及び千方神社江原総代長並びに敬神会の役員の方々の協力を得て五十六名の参加のもと実施することができた。

受付・閉会式終了後、正式参拝、拜殿に立った子ども達の顔がキラリとしていた。その後手水舎の前で記念撮影、グループに分かれて輪投げ・ゲートイン・ボトル倒し・金魚すくい各ポイントを通過しゲームを楽しみ、ときどき歓声があちこちであがっていた。

社務所に於いて昼食、その時に食前・食後の作法について体験学習をし、家に帰ってからも実施するよう指導した。

午後、国旗についての指導と旗づくりを実施、みんな真剣に取り組んでいた。その後季節の動植物を題材に絵手紙づくりを実施。おじいちゃん・おばあちゃんに手紙をだすんだと喜んでいた。最後に堀越宮司より宗教心を育てるための手だてとして具体的な事例をあげ、子供達にもわかりやすく、しかもユーモアを入れた話に、熱心に耳をかたむけていた。

閉会式終了後、次のような感想があった。
○宮司さんのお話で神社のすばらしさ・大切

さがよくわかった。

○これからは祝日に国旗を掲げようと思う。

○日本の旗のすばらしさと大切さがよくわかった。

○役員のおじさんがやさしく教えてくれたよかったです。

○はやく次が来ないかな…又来るよ!



今回掲載できなかった支部につきましては、次号に掲載させて頂きます。

幣饌料御下賜報告

金 鑽 俊 樹

天皇皇后両陛下は、十月二十二日(金)から二十四日(日)まで、第五九回国民体育大会秋季大会開会式御臨場併せて地方事情御視察のために埼玉県に行幸啓された。

二十二日午前中に本庄早稲田駅に到着され、本庄市役所にて埼玉県上田清司知事から県勢概要御聴取。午後は東松山市の総合福祉エリアをご視察。夕刻には江南町のホテル・ヘリテイジに到着された。午後五時、御泊所ホテルヘリテイジにて東二井晴臣(水川神社宮司・埼玉県護国神社宮司)金鑽和夫(金鑽神社宮司)藪田稔(秩父神社宮司)が奉迎。その後、四階「ニユートン」にて、渡邊允侍従長より水川神社・金鑽神社・秩父神社・埼玉県護国神社に幣饌料がそれぞれ伝達された。

戦前の神社制度では、旧官幣社の例祭等に、幣帛現品もしくは幣帛料と神饌料が奉られた。官幣社には例祭に皇室より幣饌料の御奉納があり、国幣社には国庫より供進された。また、府県社及び郷社、村社に対しては府県や市町村より、それぞれ幣饌料が供進された。この幣饌料とは、神々に対し報賽や祈願などのために奉られる幣帛料と神饌にあてられる神饌料を合わせたものである。戦後は各地への行幸啓の際、旧官幣社や護国神社に対して伝達される。ただし、御所や御用邸などのある京都府や栃木県には、行幸啓

毎に幣饌料が伝達されることはない。

行幸啓の際の幣饌料伝達は、昭和二十二年、従来からの旧国幣社の祈年・新嘗祭の班幣が停止になったが、同年六月の近畿御巡幸の京都・大阪・兵庫・和歌山の各府県下の旧国幣社ならびに戦災を受けた旧官幣社に対し、昭和天皇から特別の思召により幣饌料を伝達したのが始まりである。

昭和二十四年一月には旧官幣社に対しても班幣が全面停止されたので、五月の九州七県御巡幸以降、行幸先の旧官幣社に対しても幣饌料の伝達が慣例となった。また、護国神社への幣饌料御奉納は、戦後の思召で戦没者に対する深い大御心である。地方行幸の際に幣饌料が下賜されたのは昭和三十五年五月山形・福島両県行幸時に山形県護国神社・福島県護国神社に対してのものが初度である。

(金鑽神社禰宜)



埼玉県国体炬火採火式

網野直久

平成十六年十月十日、秩父郡吉田町鎮座の掠神社(藪田稔宮司)例大祭が斎行された。この祭典には、古来「龍勢」と呼ばれるロケット式花火が伝承されている。

折しも、本年は埼玉県国体(「彩の国まごころ国体」)の開催年に当たり、二十三日より二十八日まで秋季大会が催された。二十三日には熊谷スポーツ文化公園で開会式が執り行われ、県内全市町村をリレー経由した炬火が最終ランナーに手渡された。

注目すべきは、県内に分散された炬火の内一つが、神事であるこの「龍勢」から採火されたことである。

三本の「龍勢」から採られた火種が高野守二禰宜、小池英隆龍勢保存会長、岸誠一体育協会長の三名に渡された。これを猪野正一町

長の捧持する点火棒に集めて炬火台に点火、「天翔ける龍勢の火」と命名された。この炬火は、出発式の十六日まで吉田町役場に保管された。

(秩父神社権禰宜)



神道青年会御神田収穫祭報告

嶋田 土支彦



埼玉県神道青年会では、秋の陽気漂う九月十八日、日高市の御神田に於て収穫祭を執り行いました。御神田行事は、一般親子を対象とした教化事業として、本年より新たに取組んでいる事業です。今年四月に参加者百名を越える御田植祭で手植えされた稲が、田長金子健氏のご尽力と、自然の恵みを頂いてすくすくと成長しました。黄金色の立派な稲穂が風にゆらゆらとなびいている姿は、とても綺麗で眩しく映りました。当日は、近隣の小学校の行事が重なるなどしましたが、参加者は六十名を越え、農や食に対する関心の高さが伺われました。

収穫祭は、榊原祥光会長が斎主を務め執り行われました。子供の代表者三名が献饌を奉仕致しました。祭典に先立って行われた開会式で榊原会長が

「私達がこうして毎日おいしいご飯を食べられるのは、お父さん、お母さん、お米を作ってくれたるお百姓さん、そして日の神様をはじめたくさんの方のお陰です。だから皆さんはいつも感謝の心をもってご飯をいただいでください。」と語りかけると子供達は神妙な顔つきで聞いていました。次に挨拶にたった金子氏は「田んぼが粗末にされている時代に農業に携わっている人間として、神道青年会の取り組みは大きな励みになる。」と当会の活動に賛意と感謝の念を表してくださいました。

祭典終了後、金子吉明耕作長（金子健氏ご子息）から稲刈り作業の説明を受けました。説明の中で金子耕作長は「三株についている籾が約七千五百粒で、ほぼ一合にあたります。稲を刈るときには、こういうことも頭に入れて一株一株心をこめて刈ってください。」とお話をされました。

参加者は、説明を聞き終えると、鎌を手にいざ御神田へ……。班ごとに指定された場所に分かれ、稲穂を刈り始めました。子供達の覚束無い鎌の使い方にはひやひやさせられましたが、当の本人達は、稲刈りの速さを競い合い夢中になって稲を刈ったり、足下ではねるバッタやカエルに歓声を上げ御神田内を走り回ったりして「稲刈りって、楽しいね。」



と無邪気な笑顔を見せていました。

休憩時間には、上福岡市の長宮水川神社・長宮幼稚園（園長 Ⅱ 星野昌弘宮司）の保育士さん五名による紙芝居やゲームも行われ、子供達はとても楽しんでいました。

我々は米作りを通じて、自然と共に生きてきた先人達の苦勞と喜び、その中で与えられた食物の有り難さを参加者を感じ取っていた。だき、神々と先人への感謝の気持ちを養おうとして本事業に取り組んできました。飢餓のない豊かな時代だからこそ体験を通じた実感が必要だと思っただけです。実際事業に参加すると、米作りに関わるすべてのことに対する感謝の気持ち自然に湧き上がり、先人の心情の一端に触れたように感じました。我々青年神職は、この貴重な体験から得たものを多くの人々に伝えていきたいと思っています。

なお、本事業の締めくくりは、神宮に対して感謝を込めて行う献穀参宮団です。参加者の募集に際しましては、皆様のご参加をお待ちしております。

(水川神社権禰直)

神職総会

吉田和生



台風一過の秋晴れの中、九月三十日、北足立支部当番の下、さいたま市「清水園」を会場に、平成十六年度埼玉県神社庁神職総会が約百七十名の参加を得、開催された。

開会式の後、今総会までにお亡くなりになられた神職十一名に黙祷を捧げた後、桜井守年支部長の座長により、議事が進行され、四名の新任神職の紹介がなされ、庁務報告、教化委員会報告と続き、関係団体である神道青年会・神道婦人会・教育関係神職協議会の事業報告・計画が発表された後、北足立支部で今夏執り行われた「お宮と親子の集い」の中で、神職を中心として前川神社氏子・劇団員等で演じられた神話劇「ヤマタのオロチ」のビデオが上映された。この劇には、氏子の家族も出演したこともあり、この催しをきっかけに家族間で共通の話題が持て、一家団欒の基になったり、ひきこもり児童の立ち直りのきっかけとなったりしたとの報告があり、それを受けて、神社と総代・氏子との関り、これからのこの事業の方向性等、活発な意見交換がなされた。

その後、研修に移り、埼玉県庁総務部学事課宗教法人担当の佐々木徳孝先生による「宗教法人の事務」と題された講演があり、宗教法人に関する手続き・認証・運営に関し、詳細な解説がなされ、法人法改正後の書類提出について、その徹底をとることであった。

総会終了後、席を移し懇親会が行われ、桜井支部長・次年度当番の入間支部金子元支部長の挨拶の後、河野雪雄顧問のご発声にて乾杯が行われ、式中新任神職夫々の抱負も力強く述べられ、なごやかな内に全ての日程が盛会裏に閉じられた。

(北足立支部事務局)

調神社氏子青年会発足

吉田正臣



さいたま市浦和区鎮座の調神社では、この度氏子青年会が発足致しました。

従来、例祭等の祭礼・諸行事には氏子の皆様の熱心なご協力を頂いて来ましたが、しかし、限られた時のみの関わりとなっていたため、我がまちの氏神様をもっとよく知ろうとの気運が高まり、これを契機に約半年の準備期間を経て、今回、「調神社氏子青年会」(代表岡田康右) 発足の運びとなりました。

去る十月二十六日、神前奉告祭を行い、引き続き浦和ワシントンホテルに於いて発会式を執り行いました。来賓には蕪田稔埼玉県神社庁長、細沼武彦埼玉県氏子青年会会長を始め二十五名を迎え、盛会の内に終えることが出来ました。この場をお借りして関係各位に御礼を申し上げます。

漸く発足したばかりの、まだまだ未熟な会です。今後とも皆様の御指導を頂きながら、氏神様、神社についての知識を深めていくことはもとより、埼玉県氏子青年会、更に全国氏子青年協議会とも協力しつつ、将来の神社神道隆昌の一翼を担う若き力として、研鑽を重ねて参りたいと願っております。

(調神社権禰宜)

庁務日誌抄

- 9・2 神道青年会觀練成研修会 十八名受講 於 寶登山神社
- 9・3 靖國神社参集殿竣工式 於 寶登山神社
- 9・3 全国神社総代会大会 於 寶登山神社
- 9・3 蘭田庁長・井上総代会長・被表彰者外四名参加 於 静岡市民文化会館
- 9・6 本庁役員会 蘭田庁長出席
- 9・9 本庁祭式講師研究会 千鳥(幸)講師・竹本助教出席
- 9・10 教化研修会 七十二名受講 於 國學院大學
- 9・10 教化研修会 七十二名受講 於 三峰神社
- 9・16 庁研修所講師会例会 於 大宮・氷川神社
- 9・16 神政連役員・委員合同会議 於 大宮・氷川神社
- 9・17 神宮大麻曆頒布始祭・表彰式 於 大宮・氷川神社
- 9・17 蘭田庁長・中村大慶・鈴木重臣・前原参事参列 於 伊勢
- 9・18 全国神社庁長会 蘭田庁長出席 於 伊勢
- 9・27 一都七県教化担当者会 於 伊勢
- 9・27 松岡・茂木・林・宮澤出席 於 栃木
- 9・30 神職総会 一七〇名出席 於 伊勢
- 10・4 神宮大麻奉送作業 宮澤・渡邊・高橋出席 於 大宮「清水園」
- 10・4 於 日通埼玉ベリカン・アロー支店
- 10・4 祭祀舞研修会 十八名受講 於 大宮「清水園」
- 10・7 正副庁長会・庁役員会 於 箭弓稲荷神社
- 10・7 神宮大麻曆頒布始祭 於 大宮・氷川神社
- 10・8 本庁臨時評議員会 於 大宮・氷川神社
- 10・8 蘭田・東二井・井上出席 於 本庁
- 10・17 三峰神社記念事業奉祝祭・同祝賀会 蘭田庁長・竹本副庁長・井上総代会長・前原参事参列 於 本庁
- 10・20 靖國神社秋季例祭 蘭田庁長参列 於 大宮
- 10・20 教化委員会正副部長会 於 大宮
- 10・21 秩父郡市神社関係者大会 前原参事出席 於 大宮
- 10・21 秩父郡市神社関係者大会 前原参事出席 於 大宮
- 10・21 第五五回中堅神職研修 於 秩父神社参集殿
- 10・21 新井君美受講 於 伊勢
- 10・26 調神社氏子青年会発会式 於 伊勢
- 10・26 蘭田庁長・前原参事出席
- 10・26 神社広報研究会 高橋学芸員出席 於 本庁
- 10・27 埼玉県宗教連盟研修旅行(広島・四国方面) 中山副庁長・前原参事・宮澤主事参加 於 本庁
- 10・11 綿貫民輔宮司神本庁長老を祝う会 中山本部長・曾根原幹事長・前原事務局長出席 於 赤坂プリンスホテル
- 10・17 一都七県神社庁長会 蘭田庁長・前原参事出席 於 明治記念館
- 10・18 関係団体連絡協議会 於 大宮・氷川神社
- 10・23 庁研修所運営会議 於 大宮・氷川神社
- 10・23 神宮(内宮)新嘗祭奉仕 北葛飾・東・秀幸
- 10・24 教化委員会・神棚奉斎啓蒙パンフレット配布活動 於 JR浦和駅西口
- 10・25 靖國訴訟千葉地裁判決報告集会 於 JR浦和駅西口
- 10・25 中山本部長・前原事務局長・中村大徳参加 於 千葉地裁・京成日ミラマール
- 10・25 全国教化会議 於 本庁
- 10・26 茂木・林両教化副委員長 於 本庁
- 10・27 北葛飾支部神宮大麻曆頒布始祭 於 本庁
- 10・28 比企支部「お宮と親子の集い」 於 箭弓稲荷神社
- 10・1 関山 知老 本 大瀧社宮外・持高(南埼玉)
- 9・1 関山 興一 兼 柳瀬社宮外・持高(南埼玉)
- 9・1 今井 悦夫 兼 日枝神社宮司(北足立)
- 10・1 関口 公樹 兼 戸川神社権禰直(北埼玉)
- 10・1 河野 雪雄 兼 谷口社宮外・持高(北埼玉)
- 10・1 堀越 敏男 兼 電報社宮外・持高(北埼玉)
- 10・31 鈴木 典臣 兼 谷口社宮外・持高(北埼玉)
- 10・31 兼 谷口社宮外・持高(北埼玉)
- 寶登山神社名譽宮司 横田 茂(秩父)
- (十一月二日 享年九十歳)

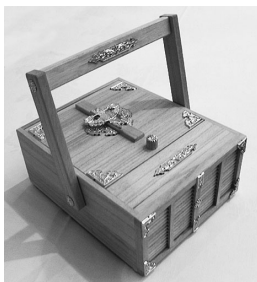
雅楽箱案内

教化委員会 神社実務部

雅楽箱とはポータブルCDプレイヤー内蔵をした簡易音響用具です。兼務神社例祭や出張祭典時の音響設備の無い場所での奏楽を目的として開発を致しました。手頃な大きさで持運びも容易です。操作は手動式ですが非常に簡単です。蓋を開けてスタートスイッチを押すだけで音楽がなります。お持ちの雅楽CDや編集したCD-Rも再生可能です。今回、五十台限定頒布を予定しております。

仕様

寸法(取っ手含む)
縦23cm、横19cm、
高10cm
重量 800g
材質 桐材



※五十台のみ限定生産ですので、追加生産は致しません。限定数に到達次第申込締切となりますので御了承下さい。

頒布予定価格

一五、〇〇〇円。お一人様二台まで購入可能。本年十二月頃頒布予定です。詳細に付きましては実務部・鈴木重臣までお問い合わせ下さい。

担当者連絡先 ○四八八九五二一四〇一又は九五二一二七〇二迄

